

世界化学年“Chemistry—our life, our future”開幕 ユネスコ本部でLaunch Ceremony 開催さる

本年は世界化学年（International Year of Chemistry 2011）である。開幕を宣言する International Year of Chemistry 2011 Launch Ceremony が、1月27日と28日の両日、パリのユネスコ本部大会議室で開催された。



写真1 開会宣言と祝辞

世界各国から、科学者、学会代表、企業トップ、政府関係者らが1,000名以上出席し、世界化学年を祝い、盛り上げていくことを誓い合った。このセレモニーはユネスコとIUPACの主催で行われ、初日は、イリナ・ボコワ ユネスコ事務総長、ニコル・モロー IUPAC 会長の開会宣言に続き、フランスのパレリ・ペクレス高等教育・研究大臣、テショミ・ト

ガ駐仏エチオピア大使らの祝辞で厳かにかつ華やかに始まった（写真1）。

開会式に続き、ノーベル化学賞受賞者 J. M. レーン教授（1987年受賞）の“From Matter to Life: Chemistry!”と題する基調講演（写真2）、アダ・ヨナス教授（2009年受賞）、ユアン・リー教授（1986年受賞）、平和賞受賞者 R. K. パチャウリ博士（2007年）、キュリー夫人の孫娘、エレナ・ランジュヴァン-ジョリオ教授（写真3）らの著名な科学者が講演を行った。

初日夕方まで、セレモニアルな基調講演・特別講演が行われた後、2日間にわたって、地球が直面している課題：環境と気候変動、栄養と水、健康、エネルギー、マテリアル等について講演が行われた。

それぞれの分野をリードする科学者、BASE、ダウ・アドバンスドマテリアル、シンジェンタ、アルケマなどの企業、業界団体の代表が課題解決に向けて化学が果たす役割を示すとともに展示会が行われた。

また、会場では、欧州石油工業協会（EPCA）がIUPAC・ユネスコと共同で化学と社会のつながりを伝えるビデオ¹⁾を、EU当局の

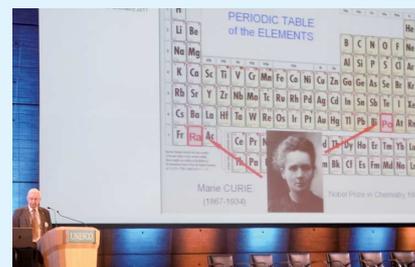


写真2 レーン教授の基調講演



写真3 キュリー夫人孫娘のエレナ・ランジュヴァン-ジョリオ教授

リサーチサポートをプロモーションするビデオ（必見です）²⁾、パリ市内の美術館で開催されているノーベル化学賞受賞者の写真展（写真4）、等の世界化学年を祝す様々な活動も紹介された。

日本からはIUPAC副会長である巽和行名古屋大学教授、日本化学工業協会、日本化学会、旭化成の代表が参加した。

プログラムや講演者をはじめ、化学への尊敬を抱きながら、世界化学年を盛り上げようという主催者の意思が伝わった。日本の化学コミュニティも世界化学年を心から祝い、精一杯取り組むべく、想いを新たにした。

- 1) <http://www.epca.be/public/content/Film/default.asp>
- 2) <http://www.deljpn.ec.europa.eu/modules/media/audio/video/04.html>

〔川島信之（日本化学会常務理事）〕

© 2011 The Chemical Society of Japan



写真4 ノーベル化学賞受賞者写真展